

第31号(2023年11月配信) コンテンツ

近藤会長からのメッセージ

1. 医薬品情報・学会ニュース
2. ヘルスケア業界トピックス
3. 医療安全確認クイズ

重篤副作用疾患別対応マニュアル「消化性潰瘍」

4. 各委員会から 地域医療アンケート実施中

第2回医療安全 Web セミナー参加者募集、他

5. 医療安全確認クイズの答えと解説

近藤会長からのメッセージ

ようやく秋を迎えたと思う間もなく、早くも初雪のニュースが聞こえてきました。気温が大きく変化するこの時季ですが、皆さまにはお元気にご活躍と拝察いたします。

今年は10月17日～23日を「薬と健康の週間」と定め、全国各地で医薬品及び薬剤師等の専門家の役割についての正しい知識を普及させる独自の取組・イベント等を展開し、ポスターの掲示などが行われました。日本女性薬剤師会では、10月1日に第一回ピンクリボン特別講演会「乳がん治療最前線を学び、かかりつけ薬剤師最前線に立とう！」と題して4年ぶりに全国規模の集合研修を開催し、多数ご参加いただきました。乳がんをはじめとする癌の早期発見、診断と治療の進歩は、元気な女性を応援する本会の願いでもあります。更に12月17日には第2回医療安全Webセミナー「抗がん剤治療の薬薬連携」をオンライン研修で開催し、街の科学者として安全な薬物療法を支えるための学びの場を提供していきます。本会は現在、地域包括ケアシステムの中で薬剤師による在宅医療の現状を把握するためのアンケート調査を実施中ですので、ご協力をお願いします。

日女薬カレントニュース第31号は、感染症情報として今期に特徴的な流行像のインフルエンザと、新型コロナウイルス感染症への対策としてワクチン、そして行政の基本的感染症対策についてお届けします。また、第18回日本老年薬学セミナー参加報告「高齢者糖尿病のアップデートな話題」、医療安全推進クイズでは「消化性潰瘍」を取り上げます。

既に全国的に増加傾向にあるインフルエンザ感染者数と、減少傾向にはありますが予断を許さない新型コロナウイルス感染症の同時流行など、地域では懸念される材料を抱えております。年末、年始を控えたこの季節、会員の皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念しております。



上図:2023年版薬と健康の週間ポスターより

1. 医薬品情報・学会ニュース

1-1 厚生労働省ホームページより

★ [薬価基準収載品目リスト及び後発医薬品に関する情報について\(令和5年10月1日適用\)](#) | [厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)

★ [緊急避妊に係る取組について](#) | [厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)

・施設紹介: 対面診療が可能な医療機関一覧(最終更新令和5年7月31日)

・緊急避妊に関する研修を修了した医師の一覧は [こちら](#) [6.9MB]

・「オンライン診療の適切な実施に関する指針」に基づく薬局における対応については [こちら](#) から

★ [医療用から要指導・一般用への転用に関する評価検討会議](#) | [厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)

厚生労働省は6月26日に「第25回 医療用から要指導・一般用への転用に関する評価検討会議」を開き、緊急避妊薬のOTC化について「地域の一部薬局における試験的運用」の資料を提出。緊急避妊薬の薬局における試験的販売をモデル的調査研究として令和5年度年夏頃～3月末に実施予定。[議事録](#) (10月20日公開)

⇒ [資料:地域の一部薬局における試験的運用について\(PDF:511KB\)](#)

★ [新型コロナウイルス感染症に関する10月以降の見直し等について](#) | [厚生労働省](#)

[\(mhlw.go.jp\)](#) 抗ウイルス薬の薬剤費にも自己負担が発生し、1割負担の患者さんの場合は3000円、2割負担の場合は6000円、3割負担の場合は9000円となっています。

リーフレットは [こちら](#) (PDF) [231KB]

【日薬業発第235号】新型コロナウイルス感染症の令和5年10月以降の医療提供体制の移行及び公費支援の具体的内容について

詳細資料 [新型コロナウイルス感染症に関する10月以降の見直し等について](#) [5.1MB]

【日薬業発第236号】鎮咳薬(咳止め)・去痰薬の在庫逼迫に伴う協力依頼および医療用解熱鎮痛薬等の安定供給に関する相談窓口への対象医薬品等の追加について

[医療用解熱鎮痛薬等の供給相談窓口\(医療用解熱鎮痛薬等110番\)の設置について](#) | [厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#) 令和5年10月10日より鎮咳剤・去痰薬も対象とする。

★ [「夜間・休日ワンストップ窓口／希少言語に対応した遠隔通訳サービス」第2回オンライン説明会のご案内](#) [446KB] 令和5年11月16日(木)16:00～17:00 参加費無料 要事前申込
開催形式 オンライン(Zoom ウェビナー) ※後日アーカイブ動画を公開する予定です。

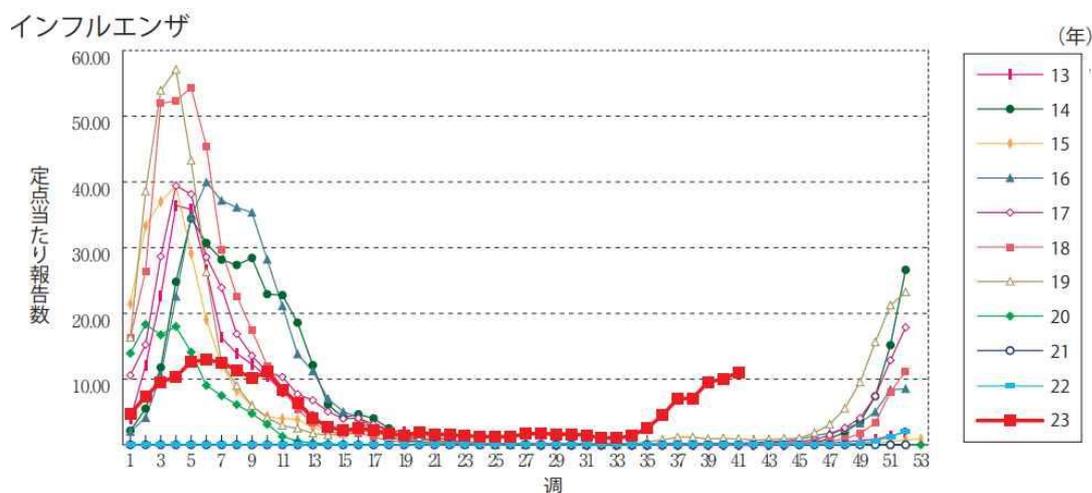
1-2 感染症情報

インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行状況について

東邦大学名誉教授 村井貞子氏

今年もインフルエンザとCOVID-19の流行が気になる季節がやってきました。既に2020、21、22年のカレントニュースでも取り上げ、これらの同時流行を懸念していましたが、幸いインフルエンザの大きな流行は見られずに済んでいました。しかし、今期のインフルエンザの発生は下のグラフに示す様

にこの2, 3年及び2021年以前とは大きく異なっています。今年の年明けから増加した定点当たりの報告数は、一旦下がりましたが、完全には消えず春から夏にかけても1.0を上回る水準で推移し、第35週(8月末)から明らかな増加に転じています。'20年以前よりかなり早く流行が始まっており、第42週(10月中旬)には定点あたり16.41の報告数になっています。2020年以前の状況から考えると冬に向かってさらに増加することが予想されます。



IDWR2023年第41週(10月9日～10月15日)より引用

その一方、COVID-19については第35週(20.50/定点)をピークに急速に減少し第41週(10月9日～15日)には定点あたり3.76となっています。

これらの感染症の現状は、人の持っているそれぞれの感染源に対する免疫状態に関係しています。インフルエンザでは既に予想されていたようにコロナ禍の時期に流行がなかった事から、国民が罹患免疫による抗体をもっていない事、具体的には近年主流となっているインフルエンザA(H3N2)型のウイルスに対して年齢を問わず抗体の保有率が低いことが報告されています。その結果としての感染者数の増加が考えられます。

また、中国からCOVID-19が入ってきた当初から、諸外国に比べて日本では感染者も死亡者も少なかったのですが、このことは逆に人々の罹患免疫による抗体が乏しい結果と関連しており、諸外国がすでに何回かの大きな流行を繰り返して免疫を獲得し、流行の終息に向かっているのとは異なり、日本ではまだ流行が繰り返される余地が大きいと考えられるので、第9波が終わっても安心はできない状況です。つまり、いずれの場合も抗体欠如が関連しており、ワクチンによる抗体の付与が必要であると考えられる状況です。

インフルエンザは、毎年流行を繰り返し、学校や高齢者施設における集団感染をおこし、大きな流行をした年には、明らかに高齢者や小児などの超過死亡が増加します。インフルエンザの場合は罹患による合併症(特に細菌性肺炎などの併発)、あるいは基礎疾患の重症化による死亡が多くなります。また、COVID-19では流行当初の変異していないウイルスのように、ウイルス自体が起こす重症化や死亡が見られるほか、オミクロン株の流行時のように病原性は低下しているが、罹患による生活状況の変化から生ずる高齢者などの死亡もあり、ウイルスの性質にもより罹患との関連は異なります。しかし、いずれも現状で抗体の上昇、感染性、重症化、致命率などに有効な成果の出ているワクチンの接種は、個人の感染の防御と共に集団の防衛にとって重要な役割を果たします。なお、近年注目されているコロナ感染後に続く症状を回避する意味でも罹患を避けることは必要です。

以上を勘案しますと、インフルエンザ、COVID-19の予防手段としては、第一にワクチン接種を勧め、そして従来までの基本的な感染予防策である手洗い・マスク、人との物理的な距離の確保等々

に関する重要性を、人々が思い起こして欲しいと望んでいます。

COVID-19の感染症法上の位置づけが変更され、人々の社会的な動向が変化し、更にインバウンド感染の機会が増え続ける中で年末・年始に向かいます。地域での生活を安心・安全に暮らす為にも、今、この時期で人々への啓発が必要ではないでしょうか。

ご参考までに、ワクチンに関する資料として、以下を記載しておきます。

- ・一社日本感染症学会 インフルエンザ委員会:「[2023/24 シーズンにおけるインフルエンザワクチン等の接種に関する考え方](#)」 2023年9月25日
- ・一社日本感染症学会 ワクチン委員会:「[COVID-19 ワクチンに関する提言](#)」2023年6月12日
- ・[COVID-19 ワクチンの安全性に関する ICMRA ステートメント | 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 \(pmda.go.jp\)](#) 2023年6月26日版の日本語訳が10月12日に掲載されました。ICMRAは、WHOをオブザーバーとして、世界の全地域より38の薬事規制当局を集めた団体。COVID-19 ワクチンの安全性について市民向けに解説し、ワクチン接種者では感染しても重症化、入院、死亡のリスクが低下すること、新たなエビデンスとして新型コロナウイルス後遺症がおこりにくいことが示唆されていると紹介して、継続的なワクチン接種を推奨しています。

★行政の基本的感染症対策について

インフルエンザは、毎年流行を繰り返し、国民の健康に対して大きな影響を与えている我が国最大の感染症の一つで、厚生労働省において、「令和5年度今シーズンのインフルエンザ総合対策について」を取りまとめ、併せて「令和5年度インフルエンザQ&A」を作成しました。インフルエンザやCOVID-19等の呼吸器感染症の感染拡大防止のため、ワクチン接種はもとより、咳エチケット、手洗い、換気、医療機関内でのマスクの適切な着用が重要です。医療・福祉施設へのウイルスの持ち込みを防ぐために、関係者が個人で出来る予防策を徹底すると同時に、訪問者等については、症状が認められる場合の訪問を自粛してもらう等の工夫などの感染対策の実施や周知の徹底が重要です。行政の基本的感染症対策について以下を参考に、周知の徹底等にご活用ください。

[令和5年度今シーズンのインフルエンザ総合対策について](#)

[令和5年度インフルエンザQ&A](#)

★[新型コロナウイルス感染症について | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)

★新型コロナウイルス(COVID-19)感染症・診療の手引き 10.0版 8月21日改訂

第10.0版は5類への類型変更後の初めての改訂ですが、新型コロナウイルス感染症が健康上の脅威であることに変わりはありません。オミクロンに置き換わって以降の国内外の知見を中心に、よりコンパクトな内容に改訂されました。[001136720.pdf \(mhlw.go.jp\)](#)

新型コロナウイルス後遺症は感染者のおよそ10人に1人とされており、診療の手引き 別冊 罹患後症状のマネジメントが改訂されました。(2023年10月改訂第3版)

[新型コロナウイルス感染症\(COVID-19\)診療の手引き 別冊 罹患後症状のマネジメント\[3.2MB\]](#)

- ・ [症状が長引くことがあることを知っていますか?](#) **NEW**
- ・ [罹患後症状に関するQ&A](#) **NEW**

★新型コロナワクチン 令和5年秋開始接種についてのお知らせ

9月20日以降、希望するすべての方を対象にXBB対応ワクチンの接種が始まります。生後6か月以上のすべての方に対して、新型コロナのオミクロン株(XBB.1.5)に対応した1価ワクチンの接種を行います。初回接種にもXBB対応ワクチンを使用します。インフルエンザと新型コロナワクチンの同時

接種もあわせてご検討ください。

(参考)<https://www.mhlw.go.jp/content/001133311.pdf>

1-3 第18回老年薬学アップデート参加報告 2023年10月20日 報告者 田村澄江

高齢者糖尿病のアップデートな話題 講師:名古屋大学老年内科教授 大谷道輝氏

高齢者糖尿病の特徴として、インスリン分泌の低下、身体活動量の低下、筋肉量の低下、脂肪組織量の増加などサルコペニア・フレイルのリスクが高く高齢者糖尿病患者におけるフレイルの有症率は50%以上で予後不良である。更に高齢者糖尿病患者は合併疾患が多いため併用薬剤数が多いことや、腎機能低下が多く、認知機能低下の合併が多いことに注意が必要である。ポリファーマシーが多く低血糖を起こしやすいこと、重症低血糖は認知症、不整脈のリスクを高めるのでライフステージに応じた糖尿病治療が重要である。中年期は厳格な血糖管理が求められるが、後期高齢期には低血糖のデメリットにも配慮が必要である。高齢者糖尿病診療ガイドライン2023が発表され、高齢者糖尿病でも、新しい糖尿病の治療薬剤であるSGLT2阻害薬、GLP-1受容体作動薬などが心血管疾患のリスクを低減するという報告や、高齢者2型糖尿病患者のインスリン治療の単純化に関する報告などが記載されている。詳細はIX. [高齢者糖尿病の経口血糖降下薬治療](#)をご参照いただきたい。参考: [高齢者糖尿病診療ガイドライン2023 \(一般社団法人 日本老年医学会\)](#)

2. ヘルスケア業界トピックス 薬と健康の週間(2023年10月17-23日)関連情報

おくすりe 情報では薬に関する話題や薬に立つ情報を掲載しています。

- <https://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/okusuri/info/index.html>

3. 医療安全確認クイズ (答えは 5. 医療安全確認クイズの答えと解説参照)

Q.重篤副作用疾患別対応マニュアル「消化性潰瘍」に関する記載のうち誤りはどれか？

参考)重篤副作用疾患別対応マニュアル「[消化性潰瘍](#)」

1. 消化性潰瘍とは胃や十二指腸の粘膜があることで、消化性潰瘍の一番大きな原因はピロリ菌感染、その次に多い原因が医薬品である。
2. 原因医薬品は、解熱消炎鎮痛薬（非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)など）、ステロイド剤、骨粗鬆症治療薬、市販の総合感冒薬(かぜ薬)などである。
3. 消化性潰瘍になると胃のもたれ、食欲低下、胸やけ、吐き気、胃が痛い、空腹時にみぞおちが痛い、便が黒くなる(黒色便)などの症状が現れる。便が黒くなるのは潰瘍から出血するため、出血の量が多いと吐血することもある。
4. 解熱消炎鎮痛薬(NSAIDs など)服用中の消化性潰瘍は痛みを伴い、突然吐血や下血する事もある。潰瘍が深い場合は胃が破れる(穿孔:穴があく)こともあり、この場合は強い腹痛が続く。
5. 解熱消炎鎮痛薬は高齢者を含め幅広く使用される医薬品なので、早期に消化性潰瘍を発見することが重要であり、上記の症状や黒色便に気づいたら速やかに医師、薬剤師に相談してほしい。

4. 委員会・都府県女薬からのお知らせ

4-1 地域医療に関するアンケート調査へのご協力依頼

日本女性薬剤師会では、今年度地域包括ケアシステムの中で薬剤師による在宅医療の現状を調査することにしました。在宅医療・多職種連携と言われて久しいですが果たして現実にはどれくらいの薬剤師が関わっているのか、また在宅医療を進める上での問題点やこれからの支援について、全国の薬剤師の現場の声を伺うためのアンケート調査です。是非、ご協力をお願いいたします。下記のQRコードにより、薬剤師の方であれば、会員・非会員、男性・女性どなたでもご回答して頂きますようお願いいたします。

回答受付期間:10月30日(月)～11月15日(水)

右のQRコードまたは↓URLにアクセスしてください。

<https://forms.gle/vgkvS8b5XJbna5KQA>



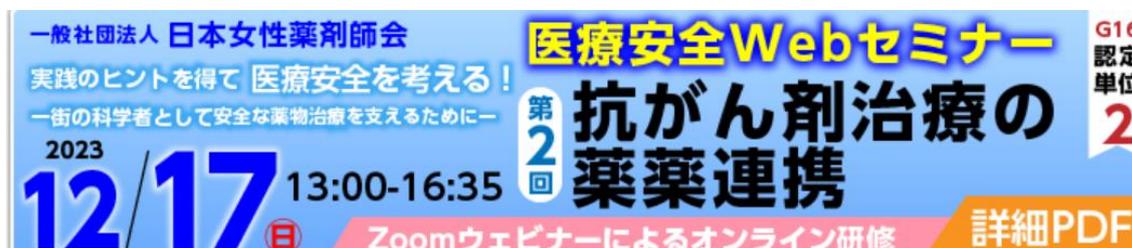
4-2 薬剤師継続学習通信教育講座を受講し、G16認定薬剤師を取得しましょう。

2023年度 薬剤師継続学習通信教育講座

2023年5月～2024年3月 | 募集中 | 2023年11月30日まで

[薬剤師継続学習通信教育講座の募集要項\(JWPA【一般社団法人 日本女性薬剤師会】\)](#)
(jyoyaku.org)引き続き受講者受付中です。今からでも受講開始・キャッチアップできます。

4-3 第2回日本女性薬剤師会医療安全 Web セミナー「抗がん剤治療の薬薬連携」



一般社団法人 日本女性薬剤師会
実践のヒントを得て 医療安全を考える!
一街の科学者として安全な薬物治療を支えるために—
2023
12/17 13:00-16:35
Zoomウェビナーによるオンライン研修
医療安全Webセミナー
第2回
抗がん剤治療の
薬薬連携
G16
認定
単位
2
詳細PDF

「抗がん剤治療と薬薬連携」をテーマに、2023年12月17日(日)13:00～16:35 Web開催

案内チラシ [20231217_nichijyo.pdf \(jyoyaku.org\)](#)、申込 <https://forms.gle/2WhmirYitxGfmLyQ9>

4-4 ★日本ファーマシストヘルス研究への参加者募集 [20230219_JPHS.pdf \(hap-fw.org\)](#)

群馬大学の疫学研究チームが女性の生活習慣と健康に関する疫学調査「日本ファーマシストヘルス研究」を開始しました。1962年～1999年生まれの薬剤師資格をもつ女性を募集しています。

月経関連疾患、不妊症、若年に発症する貧血、子宮内膜症、子宮筋腫、片頭痛など有症割合や女性ホルモン剤の利用、婦人科領域のがん検診といった女性固有の保健医療習慣の実態を把握することで、さまざまな症状や疾病の発症予防につながる若年時の生活習慣因子を探索することを目的とした長期のコホート研究です。本調査は長期にわたって2年に一回の質問票調査に協力するもので、高いフォローアップ率を確保するためには、本調査の医学薬学的意義を十分理解できる集団であることが求められ、薬剤師が対象とされたものです。

[資料請求サイト](#)から資料を入手のうえ、参加をご検討ください。

5. 医療安全確認クイズの答えと解説

誤りは4. 解熱消炎鎮痛薬による消化性潰瘍は、**痛みなどの自覚症状が出現しないことが多く**、突然の吐血や下血あるいは貧血症状の検査で発見されることもある。貧血症状が現れた場合や血液検査で貧血を指摘された場合には、積極的に上部消化管内視鏡検査を受ける必要がある。特に解熱消炎鎮痛薬は高齢者を含め幅広く使用される医薬品で注意が必要である。副作用の好発時期は非ステロイド性抗炎症薬(NSAIDs)では、服用初期に多く発生し、特に最初の1週間が高率とされている。3ヶ月以上NSAIDsを服用している関節リウマチの患者では、上部消化管内視鏡検査を行うと15.5%に胃潰瘍が発見されたと報告されているが、NSAIDs長期投与時での発生時期は様々である。NSAIDsでは、高齢(65歳以上)、消化性潰瘍の既往、抗凝固薬と抗血小板薬の併用、*Helicobacter pylori*(*H. pylori*)感染者などが患者側の主なリスク因子である。ビスフォスフォネート系などの骨粗鬆症治療薬やカリウム製剤では、服用後上体を起こしていることができなったり、心肥大による食道への圧迫や狭窄などがあると医薬品が停留し、消化性潰瘍発症のリスクが高まる。参考)重篤副作用疾患別対応マニュアル「消化性潰瘍」

6今後のイベント 研修会・講演会日程一覧(日付順)ページ

一般社団法人 日本女性薬剤師会

TEL: 03-5244-4857

FAX: 03-5244-4077

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2丁目 2-17 喜助お茶の水ビル3F

E-mail: jwpa@khh.biglobe.ne.jp

Web サイト <https://www.jyoyaku.org/>